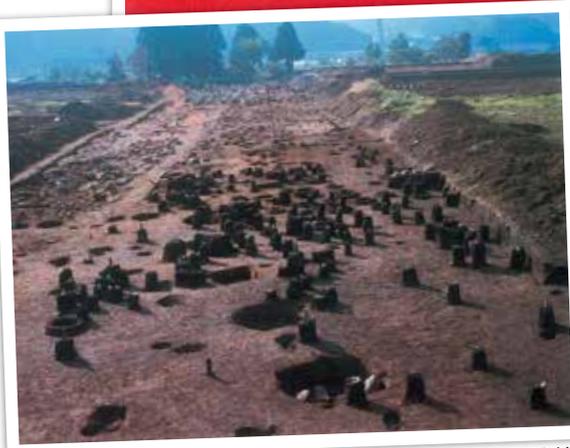


学芸員に聞く『勝山の縄文時代を探る』～三室遺跡の記憶～

東京・関西勝山会から 他



猪野口南幅遺跡の遺物出土状態



猪野口南幅遺跡上空写真  
(矢印部分が発掘調査地)

## 勝山に人が暮らし始めたのはいつ頃か？

いつ頃か？

勝山市教育委員会 史蹟整備課 学芸員 寶 珍 伸一郎

勝山市内に人が暮らし始めたのはいつ頃からでしょうか。現在、市内で確認できる最も古い道具は、約一万五千年前のものと考えられています。勝山市南部、猪野口集落の西側の発掘調査で平成十一年に見つかりました。千年程前の平安時代の集落跡を発掘中、たまたま十数点の石器が発見されました。これらの石器は原石から薄く剥ぎ取られたもので、両端に鋭い刃がついており、今でも刃物として使えそうです。用途は動物の皮を剥いだり、肉を切り取ったりする道具と考えられています。

これらの石器が使われた時期は、今よりも気温が七度ほど低い氷河期にあたります。まだ、土器は発明されておらず、石や木を主な道具として使っていたことから、日本では旧石器時代と呼ばれています。

この頃の遺跡は、県内では七か所しか発見されていません。また村を作って定住することがなく、一家族が二家族程度で構成される集団で、食料を求めて九頭竜川の河岸段丘上を移動しながら生活していたようです。

猪野口南幅遺跡から出土した石器をよく見ると、二種類の石器があることがわかります。一つは、西日本に特徴的にみられる横長の破片を割り取る手法で作られたもの、もう一つは東日本に特徴的にみられる縦長の破片を割り取る手法で作られたものです。このことから、勝山が古くから東と西の文化の混じり合う地域であったことがうかがえます。

猪野口南幅遺跡に人が滞在して二千年後、気候が温暖化に向かい始めました。日本では木の実が豊富に実る縄文時代に入り、勝山市では三室遺跡を中心に豊かな縄文文化が花開いたと考えられています。

# 勝山の縄文時代を探る

## 三室遺跡の記憶

三室遺跡は、九頭竜川左岸、勝山市遅羽町の河岸段丘上にあり、標高一八二・六メートルの三室山の西側山麓にかけて広がっています。縄文時代の住居跡や石を並べた配石遺構（はいせきいこう）などが残る他、古代には山全体が神奈備山（かなびやま）として信仰され、中世には山頂が一向一揆の砦として利用された痕跡があり、県の指定文化財になっています。縄文時代の遺跡の規模としては、県内最大級であり、勝山市の歴史を知る貴重な遺跡です。三室遺跡からみる勝山の縄文時代の様子について、寶珍学芸員にお話をうかがいました。



『ものがたりかつやまの歴史(上)』より転載

### 【出席者】

- 勝山市教育委員会 史蹟整備課 学芸員 寶珍 伸一郎
- ふるさとネットサンス入委員会 委員 丸屋仁志、荒井由泰、笠川小末、森本陽子、阿部光郎、四谷由起夫、荒尾のみ子、北川晶子（順不同・敬称略）

丸屋：今回は、三室遺跡、特に縄文時代を中心に勝山市の歴史について、お聞きしたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

### ◆暮らしの足音

荒井：勝山の縄文遺跡が全国的に見ても非常に価値があるところですが、縄文時代の勝山はどんな様子だったの



三室山の全景

ではよつか。

寶珍：勝山市は県内でも縄文遺跡の多い所です。また、全国に知られた遺跡が多く存在しています。市内に縄文遺跡が多いということは、食料が豊富であり、住みやすかったと言えます。これは勝山市の標高が高いということと関係しています。市の中心部では標高が百三十メートル前後あるのに対し、福井市の中心部、県庁あたりでは十メートル前後です。福井の町と比べると勝山はかなりの標高が高く、木の実が豊富に実り、獣もいる。さらに九頭竜川ではサケやマスをはじめとする川の幸が豊富であったと考えられます。

荒井：遅羽公民館の「縄文遺跡等資料室」には立派な土器が展示してありますね。

寶珍：三室遺跡出土品を中心に市内の各遺跡から出土したものを展示しています。全国各地の博

物館に貸し出しするなど、すばらしいものを展示しています。三室遺跡は大正時代に京福電鉄の前身の京都電灯越前電気鉄道が大野まで電車の線路を造るため、三室山の麓を削ったときに見つかり、早くから学会に知られた遺跡です。縄文時代を研究している人には有名な遺跡です。

荒井：大正三年、四年ごろですね。

寶珍：そうですね。それ以降、調査がなされ、三室遺跡からは、石を環状に並べたものが出てきました。これは東北地方に多く見つかると環状列石に類似した珍しいものです。サケやマスが遡上する東北地方では、独特の文化が花開いたとされていますが、その文化の一端が三室遺跡にも及んでいたと思われれます。



三室遺跡「環状列石」

荒井：縄文集落はどのような所に作られたのですか。

寶珍：通常、縄文集落は、日当たりの良い南向きの斜面、もしくは川が氾濫しても流れないような段丘上に存在し、近くに飲料水を汲むことができる小川の流れている所に作られました。三室遺跡の場合、九頭竜川の氾濫を避けた三室山の西側斜面にあり、飲み水は三室小学校の前を流れる三室川から汲んでいたと考えられます。

荒井：サケやマスは重要な食料源になったことですが、どんな捕り方をしたのでしょうか。

寶珍：三室遺跡からは、手のひらにのるような大きさの楕円形の石が多く見つかっています。その石の両端には、ひもを掛けるための

結びが入っています。これらの石器は投網用の錘（おもり）と考えられています。網の下に数十個の錘をつけて引くと、下で網がすぼまり、魚が捕れる仕組みです。荒井：網は何の素材で作ったのでしょうか。

寶珍：植物の繊維で作ったと考えられます。

森本：三室遺跡では、なぜサケやマスを捕っていたことが分かりませんか。

寶珍：明治時代の記録ですが、九頭竜川では四十七トンものサケやマスが捕れたという記録があります。現在ではほとんど捕れませんが、昔はたくさん川をのぼってきたことが分かります。サケやマスは冬の保存食にもなったようです。

荒井：新巻鮭にしたり、燻製にしたりとかがですね。

寶珍：遅羽公民館の「縄文遺跡等資料室」には、竪穴住居のジオラマがあります。囲炉裏の上に設けられた棚に燻製にされた魚がのってあり、あのような形で冬場の食料としていたみたいです。



縄文遺跡等資料室「竪穴式住居ジオラマ」

四谷：投網というのですが、僕らの考えでいうと竹で編んだものが先にあるといったイメージです。エバとも言いますが、あれはいつごろから使われたものなのですか。

寶珍：確かなことは分かりませんが、こちらも縄文時代からあったと考えられています。エバは、杭を川に刺して魚の逃げ道を限定

させ、その先端に置いて魚を捕獲するものですが、エバのような籠は縄文遺跡から見つかっていません。投網に関しては、三室遺跡から出土した石錘が大形品であることが一つのヒントです。九頭竜川は急流であったため、大形の石錘を使用したとも考えられます。



三室遺跡「石錘(せきすい)」

笠川：そうすると、網を作る繩は麻だったのですか。

寶珍：鳥浜貝塚からは麻繩が発掘されています。縄文時代の繩は色んな植物繊維で作られたと思われる。縄文土器の表面を見ると色んな繩のない方をしています。長野県の八ヶ岳山麓から運ばれてきたと思われる土器の表面には、とても細い繩で文様がつけられています。勝山で作られた土器にある繩の幅は五ミリくらいですが、運ばれてきた土器につけられた繩文は二〜三ミリくらいです。



三室遺跡「縄文土器の文様」

笠川：あの土器はどのような形で運んできたのでしょうか。

寶珍：例えば石器になるような硬い石を入れた容器として運ばれてきた可能性ががあります。縄文時代は想像以上に行き来があったと言えます。

### ◆人口の足音

荒井：縄文時代の人口のことも少しお話しただけなのでよつか。

寶珍：全国の遺跡のデータによると、縄文時代早期（七千年前）の北陸地方の人口は四百人ですが、三室が最盛期を迎えた中期（四千五百年前）には一万五千人に増加したと推計されました。北川：男女比は分かるのですか。寶珍：それはちょっと分からないです。

森本：出てきた遺跡から四百人と推計されたのですか。寶珍：あくまでも、遺跡の分布状況からです。

森本：もし、もっと遺跡が出てくれば増える可能性がありますか。寶珍：遺跡数はそれほど変わらな

いと思います。現在、日本では遺跡地図というのが完備されていて、早い段階で遺跡の所在がくまなく調べられています。勝山市では、平成元年に市内全域が調べられており、百四十か所ほどの遺跡を確認しています。

そのうち四十三か所が縄文遺跡です。二万年前のうちで四十三か所なので、一時期だともっと少ない数になります。縄文時代は気候変動が激しく、各時期により人口は変化しました。

笠川：気温は上がったりがつたりしていたのですか。寶珍：気候には変動があります。気温が下がると飢饉が起こり、人が少なくなる。縄文時代は五千年前くらいに一番気温が上昇しました。

荒井：今は水河期と水河期の間の間氷期と言われていますね。寶珍：そうですね。今は間氷期で、次にまた水河期が来るかもしれ

ませんね。荒井：今は天候が良いので人類が生活できているということですね。寶珍：七千年前の縄文時代には

四百人しか北陸にいなかった。その人たちが飢饉とか病気とか災害を乗り越えて生きてこられたので、私たちが今いるのです。

森本：私たちのルーツがその人たちだということ、みんな親戚ですね。寶珍：現在の人間のルーツをたどれば、十万年くらい前にアフリカを出発した一族にたどりつ

くといった説もあります。森本：壮大な話ですね。

荒尾：三室遺跡の場合、祭りを行った場所のすぐ近くに住居跡があった、また、すぐ近くに墓地がある。結構狭い所に、みんな固まって暮らしてあったということですが、この遺跡もそうですか。

寶珍：大きな遺跡だと、中央に広場を設け、その周囲に家を配置し、墓地はその内外といったものが多く見受けられます。三室遺跡の場合、最も栄えた中期でも、おそらく五、六棟くらいの家でむらが構成されていたと思われるので、比較的狭い範囲に家や墓地、祭祀空間があったと思います。また、縄文時代には、乳児が死ぬと、家の入口に埋める例が数多く見受けられます。これは、家族がそこを歩き来ることによって、再び母体に戻って生まれ変われると信じられていたためと考えられています。荒尾：再び生まれ変わってきてほしいということですね。

荒井：縄文人の平均年齢はいくつだったのでしょうか。寶珍：十五歳前後と言われています。

す。生まれてすぐには亡くなる子どもが多く、平均すると十五歳前後になるということです。

森本：獣にやられるということもあつたのですか。

寶珍：獣にやられたかどつかは分かっています。骨折のあと違う形に骨がくっついて、しばらく生存したと考えられる例は見つかっています。また、千葉県ではフグの毒にあつたと考えられる一家五人が住居内で倒れた状態で埋葬された例も見えています。次の弥生時代になると首のない人骨が葬られていたり、鏃（やじり）が刺さつた人骨が発見されたり、人による争いが起こつた事が分かります。

荒井：縄文時代は、自然と共に生きるといふ非常に穏やかで平和な時代だったのですか。寶珍：人を殺す道具が出てくるのは弥生時代からです。

## 生活のうさぎ

荒尾：三室遺跡の場合、祭りを

た場所のすぐ近くに住居跡があつて、また、すぐ近くに墓地がある。結構狭い所に、みんな固まって暮らしてあったということですが、この遺跡もそうですか。

寶珍：大きな遺跡だと、中央に広場を設け、その周囲に家を配置し、墓地はその内外といったものが多く見受けられます。三室遺跡の場合、最も栄えた中期でも、おそらく五、六棟くらいの家でむらが構成されていたと思われるので、比較的狭い範囲に家や墓地、祭祀空間があったと思います。また、縄文時代には、乳児が死ぬと、家の入口に埋める例が数多く見受けられます。これは、家族がそこを歩き来ることによって、再び母体に戻って生まれ変われると信じられていたためと考えられています。荒尾：再び生まれ変わってきてほしいということですね。

荒井：縄文人の平均年齢はいくつだったのでしょうか。寶珍：十五歳前後と言われています。



三室遺跡「炉跡」

す。生まれてすぐには亡くなる子どもが多く、平均すると十五歳前後になるということです。

森本：獣にやられるということもあつたのですか。

寶珍：獣にやられたかどつかは分かっています。骨折のあと違う形に骨がくっついて、しばらく生存したと考えられる例は見つかっています。また、千葉県ではフグの毒にあつたと考えられる一家五人が住居内で倒れた状態で埋葬された例も見えています。次の弥生時代になると首のない人骨が葬られていたり、鏃（やじり）が刺さつた人骨が発見されたり、人による争いが起こつた事が分かります。

荒井：縄文時代は、自然と共に生きるといふ非常に穏やかで平和な時代だったのですか。寶珍：人を殺す道具が出てくるのは弥生時代からです。

笠川：稲作が始まつてからですか。寶珍：そうですね。稲作が始まると貧富の差が生まれ、争いが始まつたとされています。

荒井：奪い合いですか。寶珍：ですから、むらを守るために濠を掘つたりします。勝山は高地に位置していたので、稲作に適しておらず、弥生人は少なかったようです。

荒井：縄文時代というのは交易が盛んであり、想像以上にものが行き来していたようですが、そのあたりを少し教えてください。

寶珍：勝山市に運ばれてきたと思われる縄文土器が荒土町杉原遺跡で見つかっています。これは長野県

の八ヶ岳山麓で作られたと思われる五領ケ台式土器と呼ばれるもので、土の質や焼き具合、

模様が勝山のものとは全く違います。おそろしく川伝いに、飛騨あたりを超えて運ばれてきたのだと思います。その他、岐阜県の下呂石が入つてきています。また、縄文土器には東海地方や瀬戸内地方など各地の影響を受けたものが存在します。縄文時代は、あまり自分で独創的な文様は作らず、すぐ真似をするのです。あるとき、違う地域から変わった土器が入つてくると、これは珍しいと、すぐ真似をする。そして、また違った地域から変わった土器が入つてくると、またそれを真似します。一つの土器に違った地域の模様が一緒に入っていること

## 交易のうさぎ

荒井：縄文時代というのは交易が盛んであり、想像以上にものが行き来していたようですが、そのあたりを少し教えてください。

寶珍：勝山市に運ばれてきたと思われる縄文土器が荒土町杉原遺跡で見つかっています。これは長野

県

の八ヶ岳山麓で作られたと思われる五領ケ台式土器と呼ばれるもので、土の質や焼き具合、

模様が勝山のものとは全く違います。おそろしく川伝いに、飛騨あたりを超えて運ばれてきたのだと思います。その他、岐阜県の下呂石が入つてきています。また、縄文土器には東海地方や瀬戸内地方など各地の影響を受けたものが存在します。縄文時代は、あまり自分で独創的な文様は作らず、すぐ真似をするのです。あるとき、違う地域から変わった土器が入つてくると、これは珍しいと、すぐ真似をする。そして、また違った地域から変わった土器が入つてくると、またそれを真似します。一つの土器に違った地域の模様が一緒に入っていること

にも飛びつくと、今と変わらないかもしれないですね。

北川：交流が盛んだったのですか。寶珍：遺跡の分布を見ると縄文時代の交易ルートが見えてきます。大野郡だと、東海地方の土器は岐阜県の根尾谷川を遡って大野市西谷の温見（ぬくみ）あたりから真名川伝いに入ってきてます。温見は、真名川沿いの小さな平地ですが縄文遺跡があります。そしてもう一つのルートが、岐阜県の石徹白（いとしろ）から和泉地区を超えてくるルートです。そこにも小さな平坦地がありますが、必ずと言っていいほど遺跡があります。一方、勝山市の谷峠は、全然遺跡が見つかっていません。柄神谷から奥には遺跡はないのです。あの峠を縄文



五領ケ台式土器

人は越えられなかったということです。また、大日峠の方もありません。富山・石川方面とは、九頭竜川の下流域でつながっていたと考えられます。このように、勝山へは二本の大きなルートがあり、そのルート上には中継地のような遺跡が存在していると言えます。

森本：中継して八ヶ岳山麓のものが入ってきたという考え方はですね。寶珍：そうですね。例えば、岐阜県の下呂石のような石器に適した原石があれば、直接取りに行くのではなく、村々を経由して手に入れる。

物々交換を点々としながら入ってくるのではないかなと思います。

阿部：それぞれの遺跡は相当遠いですがね。縄文時代、勝山では三室遺跡が最も大きな集落だったのですか。

寶珍：そうですね。勝山の場合は、九頭竜川の左岸側に位置する三室遺跡が最も大きな縄文遺跡です。右岸側だと、荒土や三谷、浄土寺など各所に小規模な遺跡は存在していました。

荒井：年代はそれぞれ少しずつずれるのですか。寶珍：同時期であるかは、土器の文様が同じかどうかで分かります。縄文時代中期の一番人口が多かった頃でも、同時期に存在した集落は五集落程度でしょうか。その中で一番大きいのは三室遺跡で、例えば、三室に五軒、荒土に二軒、三谷に二軒といった感



下呂石





## “勝山市”知名度アップ広報戦略への期待

東京勝山会 事務局 出口 忠 夫

メダル41個を獲得して大変盛り上がったリオ五輪。我々が希望の星「山口茜さん」のメダル獲得を期待しましたが、惜しくも準々決勝で敗退、悔しさで涙を流す茜さんの姿は私たちの胸を打ちました。茜さんの東京五輪での雪辱を期し、私たち“東京ふるさと関係3団体”は今まで以上に応援していきます。

東京勝山会の近況ですが、恒例の「勝山会ゴルフコンペ」を7月に名門・戸塚カントリー倶楽部で開催、13名が猛暑の中で奮闘しました。

現在は10月16日に開催する「第63回総会・懇親会」に向け、いかに多くの方が参加し楽しんで頂けるか、幹事会で協議を重ね知恵を絞っているところです。

勝山市の話題として、恐竜、茜ちゃん、白山平泉寺、勝山ジオパーク、勝山左義長、花月楼改修など多くありますが、私の周りに聞いてみると、茜ちゃんのことには良く知っていますが、他はほとんど知られていません。勝山市の



ゴルフコンペ参加者

知名度不足を痛感します。例えば“恐竜ふくい”ではなく“恐竜かつやま”イメージ戦略なら有効でしょうが県との関係で難しいでしょう。これからは斬新な発想での知名度アップ広報戦略が必須で、発足したばかりの「勝山市観光まちづくり株式会社」の役割が重要になると思います。個人的には、広報戦略の鍵として「平泉寺」と「ジオパーク」が握っているような気がします…。



第12回東京勝高会同窓会

なお隔年開催の「第12回東京勝高会同窓会」を6月に開催、104名の多くの参加を得て大盛況でした。

### 第63回「東京勝山会総会・懇親会」ご案内

日時 平成28年10月16日(日)12時～  
場所 東京銀座 ライオン銀座七丁目店



## 関西勝山会のご案内

本年度の関西勝山会の総会及び懇親会は、右記の日程により開催いたします。

特に今年は第90回の記念総会となりますので、ふるさと勝山において300年以上の歴史のある“勝山左義長ばやし”の公演を予定しております。

三味線、笛、太鼓による軽快なテンポのお囃子にのって浮かれる様を、十分ご堪能いただきたいと思っています。

また、会場では勝山物産展も開催いたします。

当会の参加者も年々高齢化の傾向にあり、将来のため若い方の参加を期待しています。



### 第90回 関西勝山会総会・懇親会

日時 平成28年10月2日(日)  
11:00～14:30 (受付10時より)

場所 太閤園  
(大阪市都島区網島町9-10 Tel.06-6356-1110)

連絡先 関西勝山会事務局 高井 征夫  
TEL.06-6261-2006  
FAX.06-6261-2008

# 観光の産業化を目指して!!

## ● 「勝山市観光まちづくり株式会社」を設立しました ●

勝山市と勝山商工会議所では、観光を次なる産業として育てるべく「勝山市観光まちづくり株式会社」を6月に設立いたしました。勝山商工会議所が51%、勝山市が24%を出資する資本金1,000万円の民間会社としてスタートし、勝山市の観光産業のインフラ整備、情報の受発信、観光人材育成を担当するプラットフォーム型の機能を目指しています。

その手始めとして「旧料亭花月楼」を県および市の協力を得て、リノベーションを行い、まちなか誘客の拠点施設として活用するとともに、恐竜博物館前の駐車場に便益施設を建設し、自主財源の確保を図りたいと考えています。

勝山はこれまで「モノづくり」で育ってきましたが、「サービス業」という新たなカルチャーを植え付けなければなりません。我々にとってはまさに大きなチャレンジです。勝山を「住んでよし、訪れてよし」の活気ある街にするべく、頑張りたいと存じますので、ぜひとも皆様方のご支援をお願いいたします。

## ● 人材を求めています。ふるさと勝山で働きませんか? ●

勝山に観光産業を根付かせるために優秀な人材を必要としております。勝山の将来のためにひと肌脱いでやろうという方がおいでになれば、ぜひご紹介ください。

詳しくは、勝山商工会議所 専務 村上 (TEL.0779-88-0463) までお問合せください。

## 企業版ふるさと納税でぜひ勝山市に応援をお願いします!!

地方創生を実現するためには、産業界（民間企業）の役割は非常に大きいものがあります。地方を応援したいという民間企業の皆様の想いを実現するために、平成28年度税制改正において、地方自治体に寄附ができる「企業版ふるさと納税制度（地方創生応援税制）」がスタートしました。

### ◆ いただいた寄付金の使い道

企業版ふるさと納税の対象となる事業は、内閣府の地域再生計画の認定を受ける必要があります。

勝山市では「勝山市まちなか誘客プロジェクト」事業が対象事業に認定されました。



### ◆ 勝山市まちなか誘客プロジェクト ◆

国指定登録文化財である「旧料亭花月楼」を活用し、福井県指定無形文化財である伝統芸能「勝山左義長ばやし」の体験や郷土料理の提供など、まちなかにおけるにぎわいづくりの拠点を整備する。また周辺文化財、近代産業化遺産を巡るツアーや、花月楼周辺でのイベントの開催などにより、福井県立恐竜博物館、スキージャム勝山、国史跡日境内白山平泉寺をはじめ、勝山市を訪れる年間200万人の観光客のまちなかへの誘客を図り、中心市街地のにぎわい再生と観光消費額の拡大、新たな雇用の創出につなげる。

(事業主体：勝山市観光まちづくり株式会社)



### ◆ 企業版ふるさと納税のメリット

○税負担の軽減効果が従来の2倍になり、実質的な企業負担が約4割となります。

○企業の社会貢献のイメージアップにつながります。

○寄附額の下限は10万円と少額寄附にも対応します。

ただし、勝山市に本社（地方税法における主たる事務所又は事業所）が所在する企業からの寄附は対象となりません。お問合せ・お申込みは下記連絡先（勝山市未来創造課）へお願いします。

## ふるさとルネッサンス委員

委員長	丸屋 仁志	委員	森本 陽子	委員	荒尾 るみ子
委員	荒井 由泰	//	阿部 光郎	//	北川 晶子
//	笠川 小末	//	四谷 由起夫		(順不同・敬称略)

発行/ふるさとルネッサンス委員会（事務局）勝山市総務部未来創造課  
〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1 TEL.0779-88-1115 FAX.0779-88-1119  
e-mail:rune@city.katsuyama.lg.jp 勝山市ホームページ:http://www.city.katsuyama.fukui.jp

ゆっくい  
のんびり  
観光に  
きませんか?

